



通学路脇の民家のみかんの木。綺麗に色が付いています。

# あじけん通信

2019 November  
VOL.143

株式会社きぼう国際外語学院  
企画・編集 澁谷 健司

11月に入りました。立冬も過ぎ、学校周辺の街並みや朝夕の吐く息の白さからも、冬の到来が感じられる季節がまた巡って来ました。私達にとっては、「少しずつ寒くなってきたなー」と感じる今日この頃ですが、東南アジアからの実習生には、既に「とてもさむい」レベルのようで、登下校時の通学路には、ニット帽・マフラー・厚手のコートの完全装備の皆さんの列が連なっています。

先月から今月にかけては、新天皇のご即位関連の行事や、それに沿う世界各国からの要人の来日、ラグビーワールドカップ開催等、日本国民が「世界の中の日本」の存在をイメージ出来る機会が多かったように思います。

国際理解の第一歩は「自分達の国のことを知ること」言われています。当校スタッフも、このような機会を通して、日本に対する理解を深め、実習生の皆さんとの相互理解に基づいた日本語指導に取り組んでいきたいと思っています。

## あじけんスコープ Vol.80

## 講師ファイル 武澤 啓之

はじめまして。武澤 啓之（たけざわ ひろゆき）と申します。

私は以前「ここがヘンだよ日本人」というテレビバラエティーがあって、好きでよく観ていました。日本在住の外国人が、私たち日本人が日頃常識と思っている事を、世界的な視野から見てオカシイと指摘する内容でした。私は当校で日本語講師として実習生の皆さんと接し、日頃使い慣れた日本語の本当の姿を見た思いがしています。

自分の顔は自分では見られない。私にとって実習生の皆さんは、カガミのような存在です。見ず知らずの外国に技術を学びに来る彼らの一番の武器である日本語を、共に学ばせてもらっている気がします。そして規律ある寮の共同生活から真摯な勉学態度まで見てみると、教鞭にも自然と力が入ってきます。

教室では、実践的な日本語、実習先で必要とされるコミュニケーションをとれたり、指示に従えたり、危険を回避したりすることができる力を重視して授業を進めています。また、彼らが必要としている日本語はテキストの中だけにあるものでないこと。そのことを先輩講師の方々の日頃の指導から知りました。

毎日やりたいこと、やらなければならないことの連続ですが充実した仕事をさせてもらい感謝しています。

そして、何よりパワフルな彼らにただただ脱帽です。



## 今月の元実習生！



当時、インドネシア語生活指導、日本語指導等でお世話になった恩師のアエブ先生（当校の日本語講師・インドネシア語通訳）との記念撮影

今月の実習生は、番外編です！先月下旬に行われたインドネシア（バリ島）の日本語学校視察時に、島の民芸品店で偶然！再会した本校卒業生で、元技能実習生の I KETUT ARTANA（アルタナ）さんです。

それは私達がバリ島内の視察で銀製品の民芸品を販売しているお店に寄ったときのことでした。「せんせーい！」と声をかけられ、振り向くと「アルタナです。おぼえていますか？」。あまりの偶然に一同びっくり。話を聞くと、アルタナさんは帰国後実家の農業を手伝いながら、得意の日本語を活かして、日本語ガイドや民芸品店での販売員の仕事もしているとのこと。この日は、たまたま民芸品店の勤務日で、正に奇跡の再会となりました。日本語の勉強は現在も続けていて、流暢な日本語で、きぼうでの思い出、今度は特定技能の資格で、日本で働きたいとの夢も語ってくれました。勤務中だった為、僅かな時間の再会でしたが、本校日本語講師・スタッフ一同、アルタナさんと笑顔が止まらない素晴らしいひと時を過ごす事が出来ました。

アルタナさんありがとう。これからも頑張って！そして、次は日本で再会しましょう！



ヒンドゥー教の学問と商業の神様 Ganesa (ガネーシャ)

## インドネシア(バリ島)現地日本語学校視察レポート

今月は、10月22日～10月26日(第1班)、11月6日～11月9日(第2班)の2班に分かれて行なわれたインドネシア(バリ島)の日本語学校への視察研修の様子をレポートさせていただきます。

今回の現地日本語学校視察でも、送出し機関の方々のご協力を得て、学校での授業の様子や、学生寮を見学、実習候補生との交流もさせていただきました。また、現在日本で技能実習に励んでいる実習生や、これから日本で実習生となるべく送出し機関で日本語研修に取り組んでいる実習候補生の実家訪問もさせていただきました。貴重なお時間を割いていただき、送出し機関の日本語講師の方々やスタッフの皆さんと、実習生指導に関する意見交換会を開くこともできました。

授業見学では、なんとと言っても、明るく、元気に日本語学習に取り組んでいる皆さんの笑顔がとても印象的でした。日本語コミュニケーションにも積極的で、本校講師との会話練習(会話掛かり稽古)にも積極的に参加してくれました。現地スタッフとの意見交換会では、バリの人々の生活習慣や考え方を、具体的な例を挙げて説明してもらい、来日したばかりのバリ島からの実習生の皆さんを理解する上での大きな手掛かりとなりました。また、街に溢れる数々のヒンドゥー寺院や、神々への華やかなお供え物を目にするたびに、私達の想像をはるかに超えたレベルで、宗教が生活に根ざしていることを実感しました。

これで3ヶ国目となった現地日本語学校視察。今回のバリ島でも、現地に赴いたからこそ感じる事が出来る現場の空気や、その国の風土に触れることが出来、実習生の皆さんに接する上での新たな視点を養うことが出来ました。これからも「百聞は一見に如かず」、出来る限り現地に足を運び、実習生の皆さんの母国についての見聞を広げ、当校での日本語指導に役立てていきたいと考えておりますので、今後とも、皆様のご理解・ご協力をどうぞよろしくお願い申し上げます。



笑顔で迎えてくれた日本語学校の生徒とスタッフの皆さん



本校講師(金田)と会話練習する実習候補生の皆さん



現地送出し機関スタッフとの意見交換会



実家訪問:写真中央白いポロシャツの男子が実習候補生

※ 当校ホームページ <http://www.ajiken.jp/> から「あじけん通信」バックナンバーもご覧になれます